



木曽林務課だより 9月号

9月といえば芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋…
いろいろな楽しみが増える季節ですね(^^) / ★ ☆
楽しいことをなにか見つけて、それに打ち込んでみたいと思う今日この頃です。
2017年も4分の3が終わろうとしています。
残り4分の1、悔いの残らないように精いっぱい邁進します～。

平成29年度「森の名手名人」に 南木曽町の可児 カー朗（かに りきいちろう）さんが選ばれました

森や海、川を守り、育て、その恵みを持続的に活かしていく知恵や技を次世代に継承するなど、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている人達を、公益社団法人国土緑化推進機構では「森の名手・名人」として、平成14年度より選定しています。

本年度長野県では2名の方が選ばれました。
南木曽町田立で「ヒノキはし製造」を34年間行っている可児 カー朗さんがその一人です。

約25年間、南木曽町の当時営林署で造林や下刈などの森を育てる仕事をした後に、6年かけて工夫をこらして制作した自家製の機械を使用して、木曽の森林が育んだ「ヒノキ」を材料にした箸を、年間約30万膳制作しています。



この箸の製作は、親子3代で営んでおり、父から息子そして孫へとその技術が今も伝承されています。制作されたヒノキの箸は、手触りもよく、長さ・形・色など、材量の特徴が十分に活かされており、何を摘まんでも滑らない箸は、これからも多くの方に愛用されることでしょう。

なお、可児さんは、1941年に満州に渡ってから1958年に中国から帰国するまでの自身の経験に基づき、自身が開拓民として体験した事を「風雪に耐えて咲く寒梅のように」の本にし、歴史を次世代に語り継ぐ平和活動にも貢献されています。

これからも末永くご活躍ください。

